

平成 30 年 3 月 14 日
教育委員会 3 月定例会
報告事項 (3)
学校教育部教育指導課

横須賀市学力向上推進プラン

(平成 30 年度から 4 力年計画)



横須賀市教育委員会
平成 30 年 (2018 年) 3 月

目次

○はじめに	1
(1) 策定の趣旨	
(2) 基本方針	
★学力向上全体構想図	
第1章 横須賀市のこれまでの学習状況と分析について	3
(1) 年度ごとの変容	
(2) 同一集団の変容	
(3) 平成27～29年度の各学年の状況	
第2章 横須賀市の学力向上に向けた目標指標について	12
◇本市における学力向上の目標指標について	
(1) 目標① 全国学力・学習状況調査において、小学校6年生、中学校3年生ともに全国の平均正答率を目指す。	
(2) 目標② 同一集団の経年変化に着目し、改善した状況を示す指数の上昇を目指す。	
(3) 目標③ 横須賀市立小・中学校学習状況調査（国語・算数／数学）において、平均正答率の度数分布、40%未満（A層）の割合の減少を目指す。	
(4) 目標④ 学習意欲と相関のある「自己肯定感」を示す設問において、同一集団の肯定的回答の増加を目指す。	
(5) 目標⑤ 学習意欲と相関のある「学習集団・学級集団」の状況を表す設問において、同一集団の肯定的回答の増加を目指す。	
第3章 学力向上に向けた各学校の取組について	20
◇学力向上に向けた学校が取り組むべき3つの提言	
(1) 提言1 学力向上に向けた課題解決のために、教育課程を編成し、組織的に取り組みます。	
(2) 提言2 指導力の向上を図るために、校内研究を充実させます。	
(3) 提言3 学習内容を定着させるために、目標と指導と評価が一体となった授業づくりを行います。	
◇提言の関係性について	
◇「確かな学力」を育成する授業づくりのための視点	
第4章 横須賀子ども学力向上プロジェクトについて	29
(1) 学校体制の確立に関する事業	
(2) 学習状況、体力状況の把握と指導改善に関する事業	
(3) 学習環境の整備に関する事業	
(4) 教員の指導力向上に関する事業	
(5) 学習機会の拡大に関する事業	
(6) 家庭学習の確立に関する事業	

はじめに

(1) 策定の趣旨

平成15年、18年に実施された国際的な学力比較調査結果等により、日本の子どもたちの学力が低下しているのではないかという懸念が示されました。また、平成19年度から全国学力・学習状況調査が実施され、社会の学力向上に対する関心が高まるようになりました。

本市においても、各学校の取組からの分析や横須賀市立小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査等の結果から、子どもたちの学力について課題のある状況ということが明らかとなっています。

このような状況を踏まえ、横須賀市教育委員会では、児童生徒の確かな学力の定着・向上を図ることをねらいとし、平成21年度から『横須賀市学力向上推進プラン』を策定し、学校と教育委員会が一体となって、学力向上の取組を推進してまいりました。また、横須賀市学力向上推進委員会から平成27年度末に示された「学力向上に向けた学校が取り組むべき3つの提言」を受け、現在、取組を推進しているところです。

しかし、これまでの学習状況調査等の結果からは、「小学校・中学校ともに学習内容の定着に課題のある児童生徒の層が多いこと」、「小学校低学年の段階から、学力に課題があること」など、横須賀市の子どもたちの学習状況について、その課題の詳細が明らかとなってきました。

このことから、改めて学校と教育委員会が一体となって、計画的にこれらの課題解決に取り組む、一層の学力向上を目指すこととしました。そこで、学校教育全体の質の保証・向上を図っていくため、中期的な『横須賀市学力向上推進プラン』を策定することとしました。

(2) 基本方針

- ①本計画は、教育振興基本計画 第3期実施計画及び、平成29年度学力向上推進委員会の答申である「学力向上全体構想図、目標及び目標指標」に基づいて策定する。
- ②本計画は、平成30年度から4カ年計画とする。
- ③本計画の目的は、教育基本法や学習指導要領等に沿った学校教育の質の保証・向上に資することとする。なお、新学習指導要領の趣旨を周知しながら、計画を進める。
- ④策定に際しては、「生きる力」を支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和のとれた育成が重要であるという認識に基づいて行う。
- ⑤新学習指導要領にて「新しい時代に必要となる資質・能力」として示された「◆生きて働く知識・技能の習得」「◆未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「◆学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」をバランスよく育成することを目指す。

学力向上全体構想図

横須賀の子ども像

『人間性豊かな子ども』

教育振興基本計画 学校教育編 目標1

「子どもの学びを豊かにします」

学力向上推進プラン（学校教育編目標1 施策（1）教育活動の充実 学力向上事業）

横須賀のすべての児童生徒に「確かな学力」の育成を図る

目標①：全国学力・学習状況調査において、小学校6年生、中学校3年生ともに全国の平均正答率を目指す。

- ・指標／全国平均正答率を基準に横須賀市の平均正答率の割合を算出し、平成33年には、小学校6年生、中学校3年生の国語A・Bと算数／数学A・Bの平均正答率の指数をそれぞれ100とする。

目標②：同一集団の経年変化に着目し、改善した状況を示す指数の上昇を目指す。

- ・指標／平成26年度小学校6年生から平成29年度中学校3年生までの同一集団における4年間の児童生徒の改善した状況を表す指数の変化を基準として、平成33年には、現小学校3年生から5年生の児童それぞれの中学生時の国語の指数を6.8、数学の指数を3.2上昇させる。

目標③：横須賀市立小・中学校学習状況調査（国語・算数／数学）において、平均正答率の度数分布、40%未満（A層）の割合の減少を目指す。

- ・指標／平成29年度の小学校5年生、中学校2年生を基準値として、平成33年には、小学校5年生において国語6.6%、算数8.2%、中学校2年生において国語5.3%、数学4.8%減少させる。

目標④：学習意欲と関連のある「自己肯定感」を示す設問において、同一集団の肯定的回答の増加を目指す。

- ・指標／横須賀市学習状況調査の「自分の意見は自信をもって言えますか」「自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか」「自分にはいいところがあると思いますか」という質問に対して、平成33年には前年度と比較し、小学校5年生、中学校2年生の同一集団の肯定的回答の割合を増やす。

目標⑤：学習意欲と関連のある「学習集団、学級集団」の状況を表す設問において、同一集団の肯定的回答の増加を目指す。

- ・指標／横須賀市学習状況調査の「学級はみんなで決めた学級のめあてを守っていますか」「学級会では意見が出しやすいですか」「学級の人たちは協力的で助け合っていると思いますか」という質問に対して、平成33年には前年度と比較し、小学校5年生、中学校2年生の同一集団の肯定的回答の割合を増やす。

目標①～⑤を達成することで、「確かな学力」の育成を図ります。

学校

学校が取り組むべき3つの提言

- 提言1 学力向上に向けた課題解決のために、教育課程を編成し、組織的に取り組みます。
- 提言2 指導力の向上を図るために、校内研究を充実させます。
- 提言3 学習内容を定着させるために、目標と指導と評価が一体となった授業づくりを行います。

教育委員会

横須賀子ども学力向上プロジェクト

- ①学校体制の確立に関する事業
- ②学習環境の整備に関する事業
- ③学習機会の拡大に関する事業
- ④教員の指導力向上に関する事業
- ⑤学習状況、体力状況の把握と指導改善に関する事業
- ⑥家庭学習の確立に関する事業



横須賀市のこれまでの 学習状況と分析について

(1) 年度ごとの変容

- ①全国学力・学習状況調査 小学校 6 年生 (平成 25 年度～平成 29 年度)
- ②全国学力・学習状況調査 中学校 3 年生 (平成 25 年度～平成 29 年度)

(2) 同一集団の変容

- ①平成 25 年度小学校 5 年生の平成 29 年度までの変容
- ②横須賀市学習状況調査による平成 27 年度から平成 29 年度までの変容 (小学校)
 - ・小学校 4 年生→小学校 5 年生
- ③横須賀市学習状況調査による平成 28 年度から平成 29 年度までの変容 (中学校)
 - ・中学校 1 年生→中学校 2 年生

(3) 平成 27～29 年度の各学年の状況



年度ごとの変容

横須賀市では、全国学力・学習状況調査の市全体の結果について、平成 25 年度から公表をしています。ここでは、小学校 6 年生、中学校 3 年生の結果の推移について、表しています。

①全国学力・学習状況調査 小学校 6 年生（平成 25 年度～平成 29 年度）

平成25年度		国語A	国語B	算数A	算数B
	横須賀市	56.0	43.6	73.0	52.6
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
	指数	89.3%	88.3%	94.6%	90.1%
平成26年度		国語A	国語B	算数A	算数B
	横須賀市	66.6	50.0	74.4	53.1
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2
	指数	91.4%	90.1%	95.3%	91.2%
平成27年度		国語A	国語B	算数A	算数B
	横須賀市	63.5	59.3	70.8	38.7
	全国	70.0	65.4	75.2	45.0
	指数	90.7%	90.7%	94.1%	86.0%
平成28年度		国語A	国語B	算数A	算数B
	横須賀市	67.1	54.7	75.3	43.2
	全国	72.9	57.8	77.6	47.2
	指数	92.0%	94.6%	97.0%	91.5%
平成29年度		国語A	国語B	算数A	算数B
	横須賀市	70	52	74	41
	全国	74.8	57.5	78.6	45.9
	指数	93.6%	90.4%	94.1%	89.3%

小学校 6 年生は平成 25 年度において、国語 A・B、算数 A・B とともに全国平均正答率と大きく差があり、課題のある状況でした。この 5 年間は同じ状況で推移しており、全国との差がある状況は変わっておらず、引き続き、課題があると捉えられます。

②全国学力・学習状況調査 中学校3年生（平成25年度～29年度）

平成25年度		国語A	国語B	数学A	数学B
	横須賀市	74.4	67.4	62.6	39.9
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5
	指数	97.4%	100.0%	98.3%	96.1%
平成26年度		国語A	国語B	数学A	数学B
	横須賀市	78.1	49.4	65.4	58.9
	全国	79.4	51.0	67.4	59.8
	指数	98.4%	96.9%	97.0%	98.5%
平成27年度		国語A	国語B	数学A	数学B
	横須賀市	74.7	65.5	63.5	42.1
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6
	指数	98.5%	99.5%	98.6%	101.2%
平成28年度		国語A	国語B	数学A	数学B
	横須賀市	73.8	65.6	60.1	42.0
	全国	75.6	66.5	62.2	44.1
	指数	97.6%	98.6%	96.6%	95.2%
平成29年度		国語A	国語B	数学A	数学B
	横須賀市	76	70	62	47.0
	全国	77.4	72.2	64.6	48.1
	指数	98.2%	97.0%	96.0%	97.7%

中学校3年生は、平成25年度から平成29年度まで、どの教科についても全国平均正答率との差は2ポイント～3ポイント下回る程度で推移しており、全国と同程度と捉えられるものの、下回っているという点では、課題があります。

全国学力・学習状況調査の5年間の結果の推移をみると、学習状況については、小学校・中学校とも全国平均正答率を下回っており、課題のある状況が続いています。

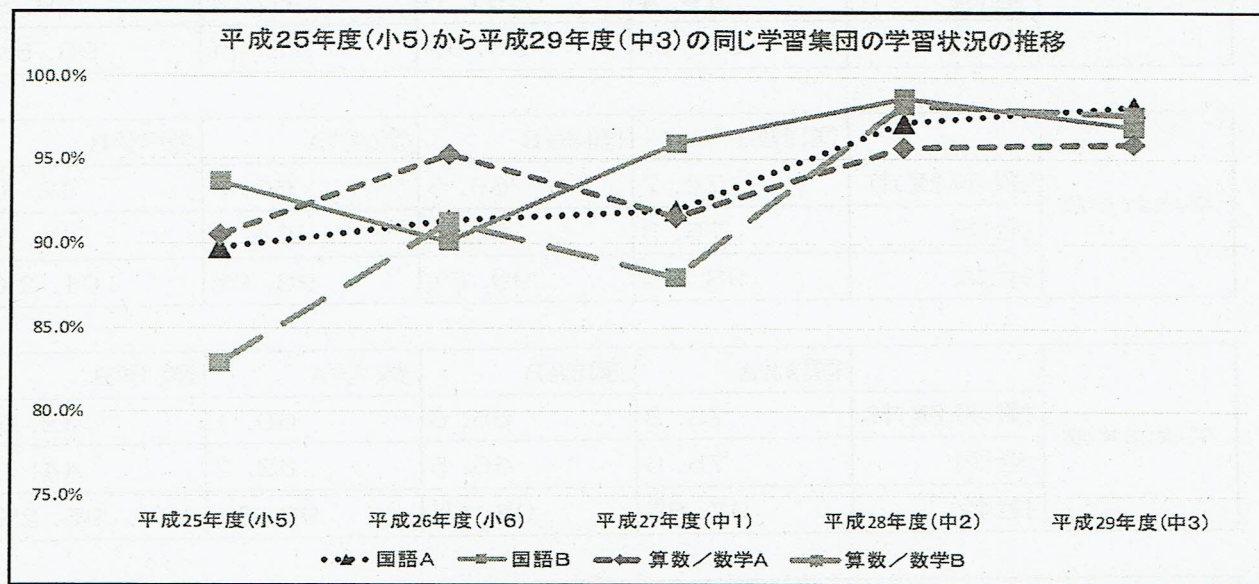
また、中学校よりも小学校の方が指数が低く、全国平均正答率と大きな開きがあることから、引き続き学力向上に向けた取組を行っていく必要があります。



同一集団の変容

平成 25 年度から、市独自の調査である「横須賀市立小・中学校学習状況調査」(以下市学習状況調査)を実施しています。本調査を実施することにより、同一集団の学習状況の変容をとらえることができるようになりました。

①平成 25 年度 5 年生の平成 29 年度までの変容 (全国平均正答率を 100 としたときの指数)



	平成25年度(小5)	平成26年度(小6)	平成27年度(中1)	平成28年度(中2)	平成29年度(中3)
国語A	89.8%	91.4%	91.9%	97.2%	98.2%
国語B	93.6%	90.1%	95.9%	98.7%	97.0%
算数/数学A	90.5%	95.3%	91.6%	95.7%	96.0%
算数/数学B	83.0%	91.2%	88.0%	98.3%	97.7%

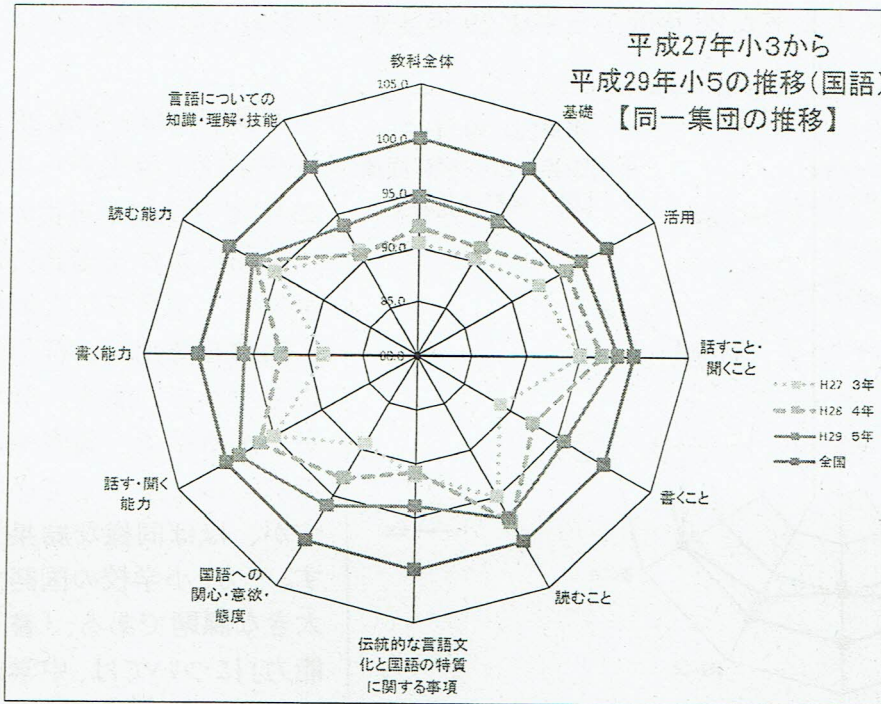
平成 25 年度の 5 年生は、平成 29 年度までに全国調査を含め、毎年調査を行っています。上のグラフと表は、全国平均正答率を 100 とした時の横須賀市平均正答率の指数を算出し、その推移を表したものです。同一集団での経年変化をみると、多少の上下はあるものの、全体的に右上がりのグラフとなり、学年が上がるにしたがって、全国平均正答率との差が縮まってきていることがわかります。

同一集団での経年変化では、子どもたちが力をつけていることがわかり、学力向上の取組が少しずつ成果として表れてきていると捉えられます。

※市学習状況調査では、国語、算数/数学において、基礎問題と活用問題に分けることができるため、基礎問題をA、活用問題をBとして示しています。また、市学習状況調査においても調査全体の母数は13万人から20万人(学年・教科によって違う)あるため、調査全体の平均正答率をここでは全国として捉えています。

②横須賀市学習状況調査による平成27年度から平成29年度までの変容（小学校）

【グラフ1】



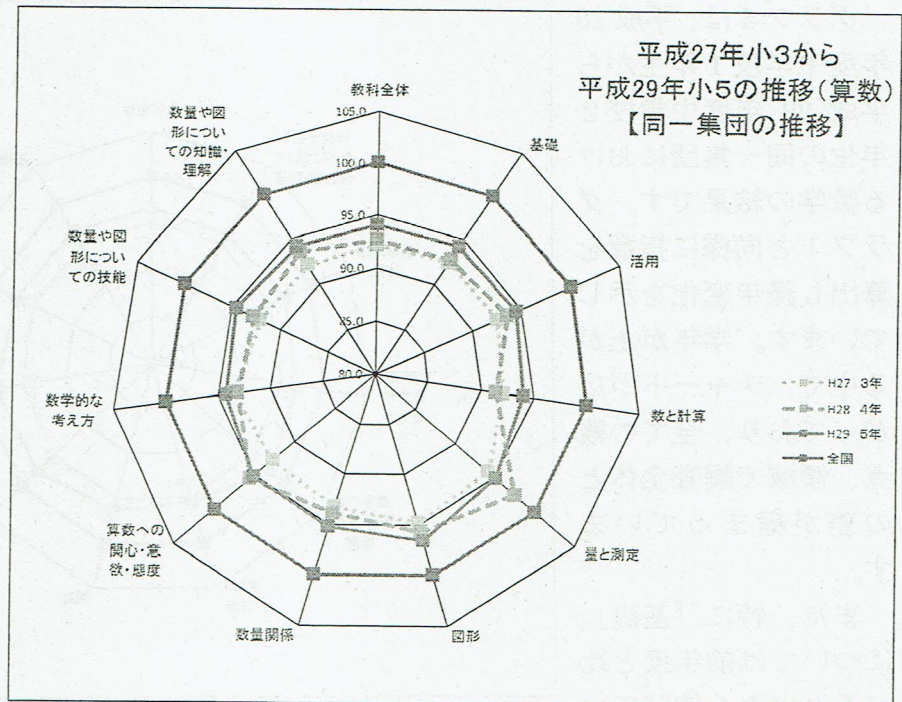
グラフ1は、平成27年度小学校3年生から平成29年度小学校5年生までの同一集団における国語の結果です。調査全体(全国)の平均正答率を100として、横須賀市の平均正答率の指数を算出し、その経年変化を示しています。国語の各観点や領域で、学年が上がるにしたがって、チャートが広がっており、調査全体との差が縮まっています。

特に「書く能力」では、小学校3年生でチャート

がへこみ、大きく課題であったものが、小学校5年生では改善しており、子どもたちが力をしっかりとつけていることがわかります。

【グラフ2】

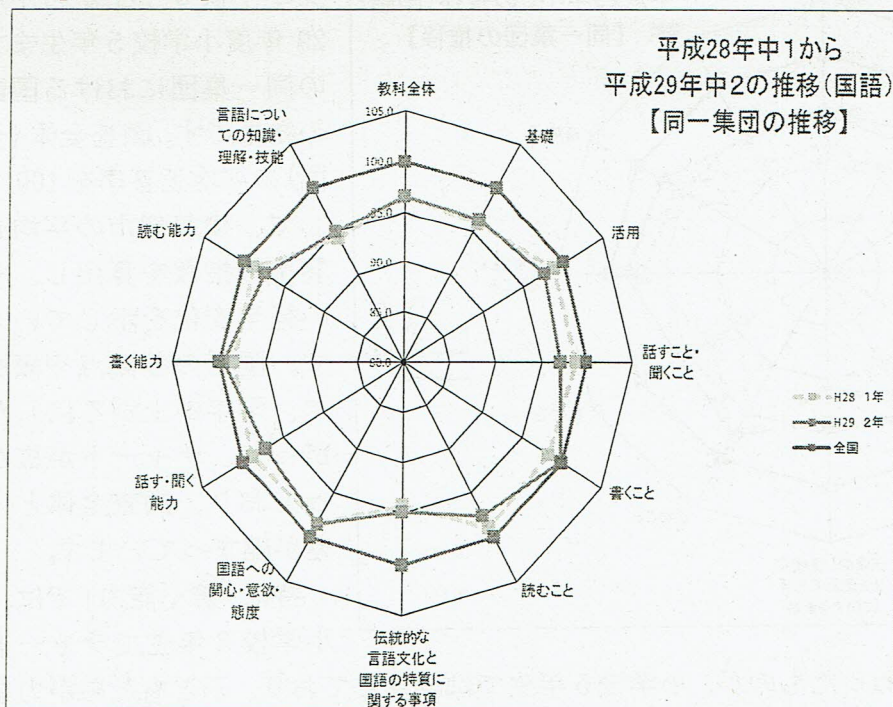
グラフ2は、平成27年度小学校3年生から平成29年度小学校5年生までの同一集団における算数の結果です。グラフ1と同様に指数を算出し、経年変化を示しています。国語ほど顕著ではありませんが、学年が上がるにしたがって、チャートが広がっています。算数は学年が上がるとともに難易度が高くなるのが特徴ですが、その中でもこのように全国との差を縮めていることは、子



どもたち自身の力が伸びていると捉えることができます。

③横須賀市学習状況調査による平成28年度から平成29年度までの変容（中学校）

【グラフ3】



グラフ3は、平成28年度中学校1年生から平成29年度中学校2年生の同一集団における国語の結果です。グラフ1と同様に指数を算出し、経年変化を示しています。学年が上がる中で、観点や領域によって上下していますが、ほぼ同様な結果です。一方、小学校の国語で大きな課題である、「書く能力」については、中学校では全国とほぼ同じ水準となっています。

【グラフ4】

グラフ4は、平成28年度中学校1年生から平成29年度中学校2年生の同一集団における数学の結果です。グラフ1と同様に指数を算出し経年変化を示しています。学年が上がる中で、チャートが広がっており、全ての観点、領域で調査全体との差が縮まっています。

また、特に「基礎」については前年度と比べると大きく伸びてい

